

メキシコ・アグアスカリエンテス日本人学校における英語指導と実践

前アグアスカリエンテス日本人学校 教諭

宮崎県延岡市立緑ヶ丘小学校 教諭 津 曲 康 夫

キーワード：在外教育施設、メキシコ、英語教育、小学校（小学部）、フォニックス

1. はじめに

アグアスカリエンテスは、メキシコの中央部にあり、自動車産業を中心に多くの日系企業が進出している。その為、近年、児童生徒数も急増しており、赴任最終年度であった平成27年度には、100名を超える児童生徒数になった。言語環境としては、スペイン語圏内であり、観光地であれば英語も若干通じる場合もある。しかし、基本的にはスペイン語が日常会話として使われている地域である。このような環境の下、本校でも、学校の1つの課題であった、英語指導の更なる充実を担当として担うこととなった。本実践指導記録では、小学部を中心とした英語指導とその実践について記載していく。

2. 本校の英語指導と児童の実態

(1) 本校の英語指導の変遷

本校では、上記に記載した通り、児童生徒数の急増と英語指導の更なる充実の為、本校理事会の協力も得ながら、2カ年に渡り、英語教員の加配と少人数指導（20名以下）の充実を進めた。また、赴任2年目より、他の英語教員及び現地採用英語講師と共に、小学部においては、英語のカリキュラムの見直しを行った。そして習熟度別学習の導入を進め、児童の実態により即したきめ細かな指導の実現に注力した。また、英語力の高まりを確認する場として、英語検定（英検）への受験推進も積極的に行い、受験者数や合格者数も非常に多くなった。

(2) 英語指導における本校児童の実態

本校児童の実態として、英語に対する関心は比較的高い。地理的には、北にアメリカ合衆国などの英語圏があり、旅行して英語を使う機会が多いことが考えられる。また、他にも現地の学校でも英語教育に力を入れていること、日本に帰国後、帰国子女枠で英語が必要になることなどの環境的要因が理由として考えられる。英語が流暢に話せる児童もいれば、英語に初めて触れる児童、スペイン語と英語を混同している児童など、英語の定着度合いには個人差がある。

(3) 保護者や地域の要望と文部科学省の指針

① 保護者や地域の要望

保護者や地域からは、「スペイン語圏内であっても、帰国後の事を考えて、英語に力を入れて指導してほしい」という強い要望がある。毎年実施している、学校評価のアンケート結果からも明らかである。また、本校は中学部までしかないため、現地の高等教育を受けるためには、スペイン語と英語の習得が必須になることから、保護者の英語に対する興味関心が高まることは必至である。

② 学習指導要領と英語の授業の位置づけ

文部科学省から出された現行の学習指導要領では、小学校5・6年で、年間35時間（週1時間）の「外国語活動」の時間が設けられ、英語を中心に慣れ親しませている。さらに、現在検討されている次期学習指導要領では、小学校3・4年で、現在5・6年で実施中の「外国語活動」のような学習活動を実施し、5・6年は、「英語科」として本格的に英語科教育が導入される予定となっている。本校では、学校裁量の時間を使い、小学部1年から

年間70時間（週2時間）の英語指導の時間を確保し、重点的に指導を行っている。そこで、メキシコでは、英語の指導をどのように行っているのかをまずは視察し、在任中に本校の英語指導の改善を進めていくことにした。

3. メキシコの現地校での英語指導視察

(1) 隣接校のフランスス校（私立学校）での英語指導視察より

現地校であるフランスス校は、本校と隣接しており、以前から交流活動が行われている学校である。フランスス校は、幼稚園部・小学部・中学部があり、英語教育も小学部から本格的に行われている。当校の英語教育は、メキシコで多くの学校で取り入れられている、“Systema Una”（システム・ウナ）という英語指導方法で行われており、小学部では、毎日3時間ずつスペイン語と英語を両方使いながら指導している。また、文法や英単語、英語表現等、英語に関わる内容だけでなく、理科や社会的内容をテーマに英語で学ぶ形をとっている。

当校英語科コーディネーターの話によると、小学部では特に、Listening・Speaking（聞く・話す力）に力を入れて指導している。中学部では、週8時間英語の授業があり、小学部同様、様々な教科や分野の学習を、英語を通して学んでいる。中学部では、特に、Reading・Writing（読む・書く力）に力を入れている。

“Systema Una”（システム・ウナ）

メキシコで行われている教育システムの1つである。システム・ウナは、Santillana（サンティリャーナ）という会社が提唱し、すでに6万人の学生が利用し、4500もの教員研修に関するサービスを提供している。メキシコの30州で導入されており、メキシコ以外の国でも、6カ国がこのシステムを採用している。また、現在では、メキシコ国内の240の学校で試行されていて、このシステムによる新しい教育モデルを構築しているようである。主な特徴として、iPadやプロジェクタなどの最新教育機材等を活用し、独自の学習ソフトをもとに学習を進める等が挙げられる。フランスス校の英語指導においても、本システムが取り入れられ、小学部より授業が展開されている。

(2) フランスス校における英語の指導方法の一例について

(1) 小学部

段階	主な学習内容及び学習活動	
導入	1 前時の復習をする。 ・ We travel in the summer. ⇒ We will travel in the summer. (現在形の文を、willを使った未来形の文に変える復習)	Review and Writing
	2 本時に学習する英語表現を確認する。 ・ What will you do at night?	Focus
展開	3 夜何をする予定なのかを、willを使って4文作る。	Speaking and Writing
	4 ペアを作り、お互いに作った英文を使って伝え合う。(2分間で実施)	
	5 夏休みに何をする予定なのかを英語4文で書く。	
終末	6 学習したwillを使って、夏休みの予定を発表する。 ・ I will go to Guadalajara. ・ I will play soccer. ・ I will swim in the pool.	Speaking 写真：フランスス校小学部の授業（英語）の様子



(3) フランス校と本校との英語指導の比較

段階	現地校（フランス校）	本校
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習を中心に行っている。 ・学習する英語表現が明確に示されている。 ・小学部段階より、英文を書く練習を積極的に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近なテーマ（例として、色や形、買い物やレストランで使う英語等）を提示し、そのテーマにあった英語表現を学習している。 ・ListeningやSpeaking能力の向上を中心に指導を行っている。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で作文したり、伝え合ったりする活動を行っている。 ・質問や応答もできるだけ英語を使って行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で作文をしたりする活動は少なく、英語を使って発音する活動を中心に行っている。 ・簡単な質問や応答はできる限り英語を使って行うようにしているが、日本語で行うことも多い。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の成果を発表する活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りや次の時間の見直しをもつ活動を行っている。

4. アグアスカリエンテス日本人学校での取り組み

先進的な英語指導を行っているフランス校の視察を通して、本校の英語指導に必要な点が明確となった。それは、文字と音をつなげ、英語を話したり、自分で読んだりすることができるように指導することと、中学の英語指導につなげるために、英語を書く指導も段階的に行っていくという点である。但し、本校の児童の実態を考えると、まずは音と文字をつなげ、読んだり話したりする点から取り組む必要があると感じたため、下記のような指導を新たに導入し、「話す・聞く」を重点的に指導した。

(1) 指導方法の共有のための「週1ミーティング」と「英語塾」の実施

本校の英語担当教員が4名、現地採用の英語講師が3名在籍していたため、上記の重点指導事項を共通理解し実践していくため、毎週火曜日の1校時に「ミーティング」を行い、指導計画の確認や指導課程の統一、発音、評価基準の確認等を行ってきた。また、英語担当教員に対しては、放課後に「英語塾」を実施し、基本的な英語指導の方法や指導の工夫等を学び合う取り組みを実践した。

(2) 「フォニックス」を活用した音声と文字をつなげる英語指導の導入

本校児童の実態を考えると、まずは小学部1年の段階から英語の発音を慣れ親しませ、文字と発音を理解させていく必要があることから、現地採用の英語講師と毎週「ミーティング」を設け、フォニックスの指導を計画的・段階的・継続的に実施していくことにした。週2時間、2年間実践を続けてきたことで、小学部1年の児童でも、ほとんどの児童は、5文字程度の英単語や英文1文程度自力で読むことができるようになった。

フォニックス指導の一例…‘ab’の仲間 cab, crab, tab, jab 英文…The crab is on the cab.

(3) 学習指導過程を工夫した英語指導

「話す・聞く」に重点化した英語指導を行うため、下記のような授業の流れで共通理解・共通実践したことにより、どの英語教員も毎時間安定した英語指導を行うことができるようになった。また、児童がコースを移動することになった際もより円滑になった。

学習段階	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入 (7分)	1 英語で簡単な挨拶をする。 2 「フォニックス」で、発音と文字をつなげる学習をする。	2分 5分	○ 「フォニックス」では、指導者が繰り返し発音し、まねをさせることでしっかりと定着を図る。
展開 (31分)	3 本時の学習課題（トピック）を確認する。 4 学習活動に必要な英単語や必須英語表現（1～2文程度）を知り、定着するまで、様々な方法で練習をする。 5 英語を使った学習活動を（1～2つ程度）行う。	1分 10分 10分 10分	○ チャンツや歌、列ごとに発音、男女で分けて発音など、児童が楽しみながら自然に学ぶことができるよう、工夫をする。 ○ 学習活動は、静かに考える活動と体を動かす活動（「静」と「動」の活動）の2つの活動を組み合わせて行うことで、児童の個性に応じた学習を展開する。
終末 (7分)	6 「英語日記」をつけ、本時の振り返りをする。 7 次時の見通しをもつ。 8 英語で終わりの挨拶をする。	5分 1分 1分	○ 学習で学んだことや気づいたこと、楽しかったことを日本語で記録し、指導者が確認することで、児童の実態を把握し、次時以降の指導に役立てる。

5. おわりに

本研究では、前任の日本人学校における効果的な英語指導について、視察や授業実践、自己研修を通して、考察してきた。現地校の英語指導の視察や授業実践を通して、児童生徒が英語の学習に興味・関心をもち、自らが「学びたい」という気持ちになるよう、指導の工夫を行うことの重要性を学んだ。また、文字と音をつなげる「フォニックス」という指導方法を活用し、計画的・継続的に授業に組み込み指導をしていくことで、児童生徒の英語の発音や正しい読み方が飛躍的に向上することが分かった。現在、日本に戻り、この研究成果を生かして、小学5・6年全学級で連携しながら、この「フォニックス」指導を計画的に実施し、成果が徐々に表れてきているところである。今後も、次期学習指導要領に先がけ、現任校の児童の実態に合わせて、英語指導に力を入れ、学力の向上並びに中学校との円滑な接続に努めていく。

最後に、授業の視察や実践の際、多大なるご協力をいただいた現地校の先生方や関係者各位に感謝の意を表す。